

平成 29 年 山形県の自殺の現状について<確定>

山形県精神保健福祉センター(H30年10月作成)

(1)自殺者数の推移

山形県の平成 29 年の自殺者数は 210 人で、前年に比べ 10 人の減少であった。平成 18 年の 381 人をピークに減少傾向にあるが、男性の自殺者数がほぼ半減している一方、女性の自殺者数は減少幅が少ない傾向にある。全国の自殺者数は、平成 29 年は 20,465 人で、平成 22 年から 8 年連続で減少している。(図 1)

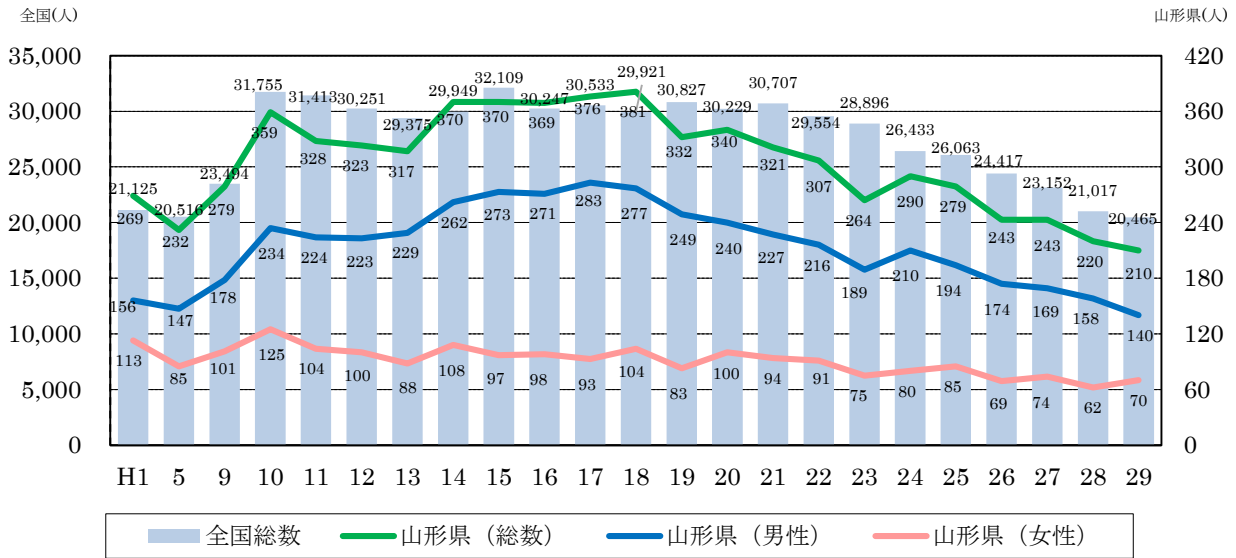


図1 自殺者数の推移(全国、山形県) 厚生労働省人口動態統計

(2)自殺死亡率の推移

山形県の人口 10 万人あたりの自殺者数(以下「自殺死亡率」)は、平成 29 年 19.2 人(全国 16.4 人)で全国 7 位だった。自殺死亡率は、前年(19.9 人)と比べ減少し、自殺者数同様平成 18 年のピーク時より徐々に減少傾向にあるが、全国と比べ依然高い状況にある。

県では、2026 年(平成 38 年)に自殺死亡率 15.0 人以下を当面の目標にしており、今後も自殺者の減少に向け引き続き対策を進めていく必要がある。国は、自殺総合対策大綱(平成 29 年)の中で、2026 年(平成 38 年)までに、平成 27 年(18.5 人)に比べ 30%以上の減少を目標としている。(図2)

(自殺死亡率)

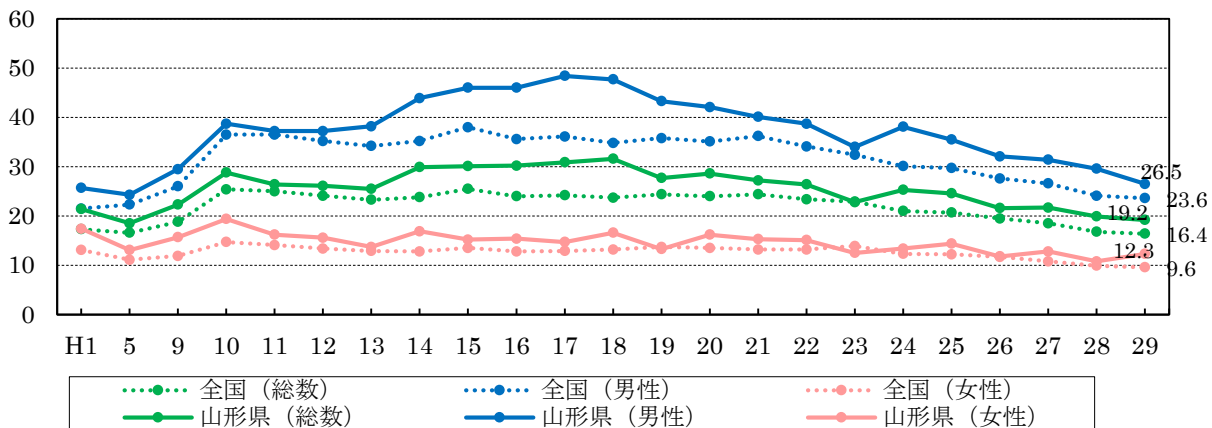


図2 自殺死亡率の推移(全国、山形県) 厚生労働省人口動態統計

県内4地域別の自殺死亡率の状況は、最上地域が高く推移している。(図3)

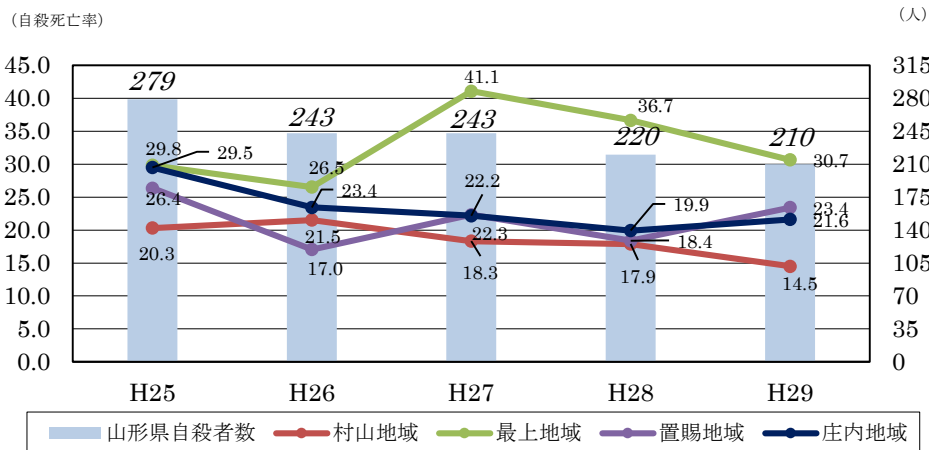


図3 4地域の自殺死亡率の推移 厚生労働省人口動態統計

(3)年齢階級別の自殺の状況

過去5年間の年齢階級別自殺者数では、60歳代が多い状況で推移している。平成29年は、次いで、40歳代、70歳代が多くなっている。20歳代までの若者の自殺者数は、近年横ばいで推移し、減少が少ない傾向にある。(図4)

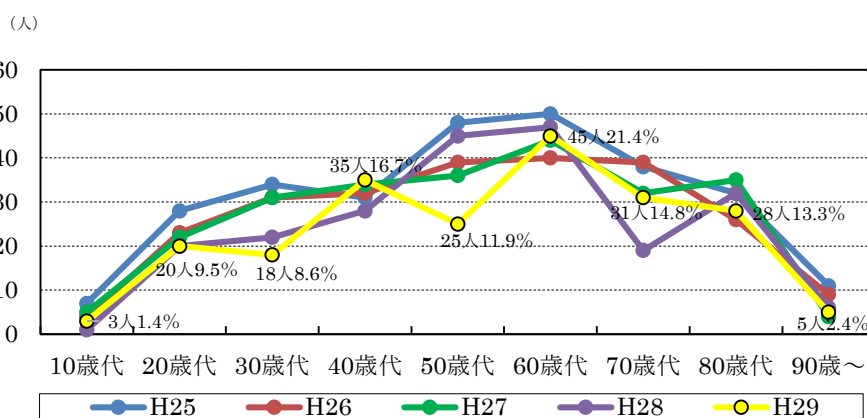


図4 山形県年齢階級別自殺者数の推移 厚生労働省人口動態統計

(4)男女別の自殺の状況

男女別では、男性が140人(66.7%)、女性が70人(33.3%)である。男性の自殺者が全体の約7割を占め、女性の約2倍となっている。平成28年と比較すると、男性は、50歳代で大きく減少、女性は、70歳代で増加している。(図5)

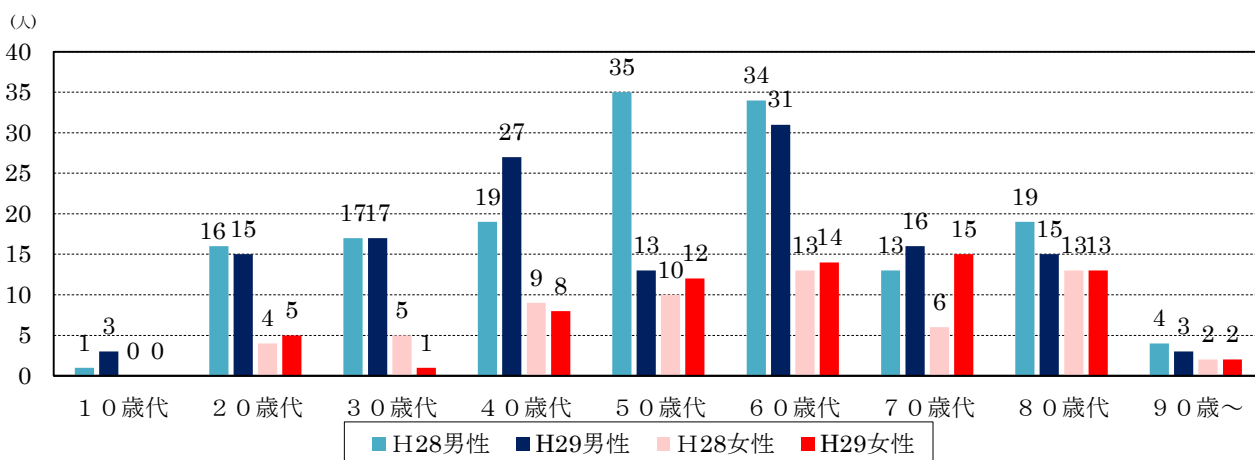


図5 山形県年齢階級別・男女別の自殺者数 厚生労働省人口動態統計

(5)死因別の自殺の状況

山形県の総死亡を死因別にみると、第1位悪性新生物から、心疾患、脳血管疾患と続き、自殺は第11位となっている。自殺は、10～30歳代で死因の第1位、40歳代で第2位となっている。(表1)

年齢階級	第一位				第二位				第三位			
	原因	死亡数(人)	死亡率	割合(%)	原因	死亡数(人)	死亡率	割合(%)	原因	死亡数(人)	死亡率	割合(%)
10歳～19歳	不慮の事故	3	3.0	21.4					悪性新生物	2	2.0	14.3
	自殺	3	3.0	21.4					心疾患	2	2.0	14.3
20歳～29歳	自殺	20	23.8	47.6	悪性新生物	5	6.0	11.9	心疾患	4	4.8	9.5
30歳～39歳	悪性新生物	18	15.3	25.0					脳血管疾患	8	6.8	11.1
	自殺	18	15.3	25.0								
40歳～49歳	悪性新生物	51	37.1	29.1	自殺	35	25.4	20.0	心疾患	24	17.4	13.7
50歳～59歳	悪性新生物	157	111.8	42.8	心疾患	58	41.3	15.8	脳血管疾患	29	20.6	7.9
60歳～69歳	悪性新生物	596	335.3	44.9	心疾患	177	99.6	13.3	脳血管疾患	102	57.4	7.7
70歳～79歳	悪性新生物	949	735.4	39.4	心疾患	323	250.3	13.4	脳血管疾患	223	172.8	9.3
80歳～	悪性新生物	2,191	1,701.4	20.1	心疾患	1,746	1,355.8	16.0	老衰	1,490	1,157.0	13.7
総数	悪性新生物	3,970	360.4	25.9	心疾患	2,342	212.6	15.3	脳血管疾患	1,571	142.6	10.2

※総数の「死亡率」の分母は、年齢不詳の人口を含む。

※死亡率は、人口10万人あたり。

※「割合(%)」は、年齢階級別の総死亡における各死因が占める割合

表1 平成29年山形県死因順位別にみた年齢階級、死亡数、死亡率、構成割合 厚生労働省人口動態統計

(6)職業別の自殺の状況

平成29年山形県警察本部自殺統計による自殺者数は217人で、前年に比べ13人の減少だった。

職業別の自殺者数をみると、「無職者」(失業者、年金・雇用保険等生活者、その他無職者)が129人(59.4%)で最も多く、次いで「被雇用者・勤め人」61人(28.1%)、「自営業・家族従事者」20人(9.2%)となっている。職業別の構成割合は、近年同様傾向である。(図6)

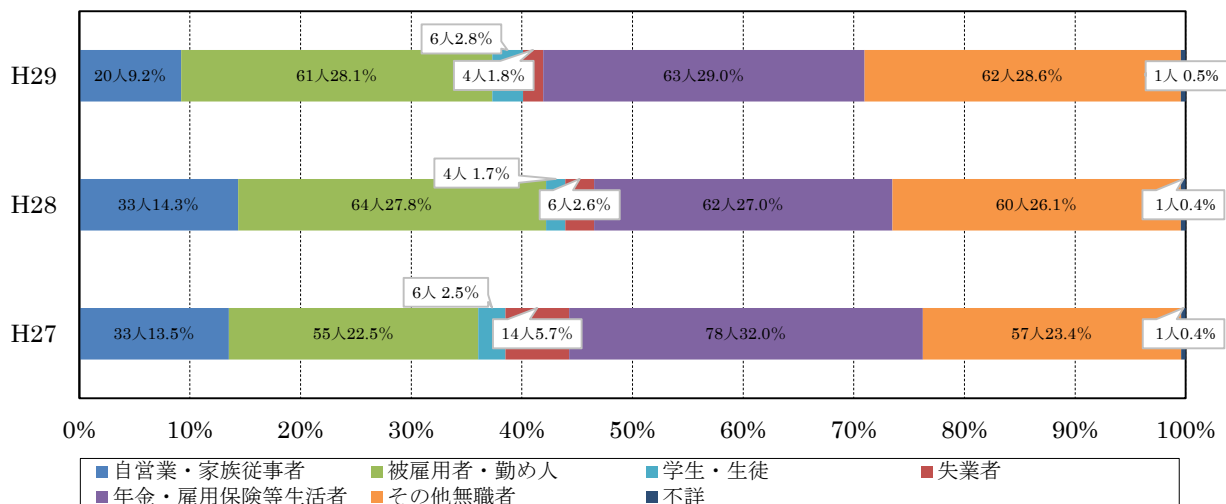


図6 平成27～29年職業別自殺者数及び割合 警察自殺統計

(7)原因・動機別の自殺の状況

自殺の多くは、多様かつ複合的な原因及び背景を有している。

原因・動機別の状況を見ると、「健康問題」が 113 人 (38.3%)と最も多く、次いで、「家庭問題」41 人 (13.9%)「経済・生活問題」37 人 (12.5%)、「勤務問題」30 人 (10.2%)の順となっている。(図 7)前年と比べると、「健康問題」で 25 人減少し、減少率も大きかった。(図 8)

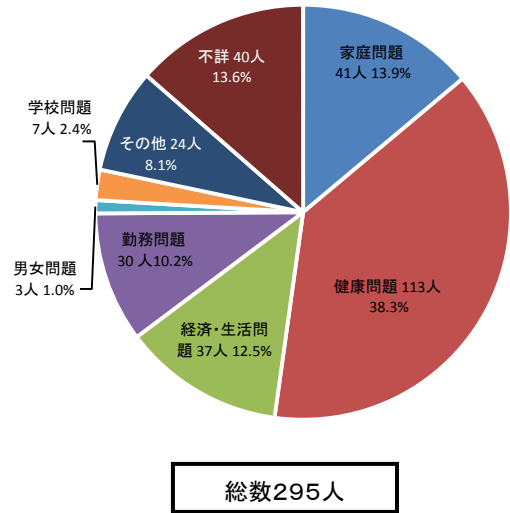


図7 平成29年原因・動機別自殺者数及び割合 警察自殺統計

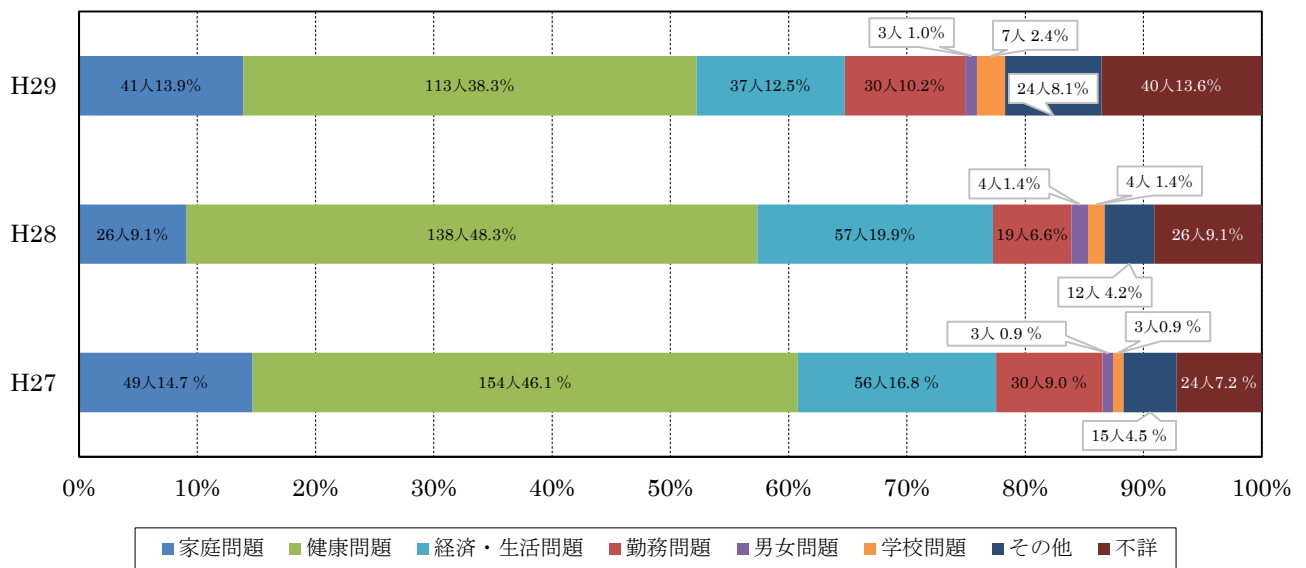


図8 平成27年～29年原因・動機別自殺者数及び割合 警察自殺統計

年代別、男女別で見ると、男性は、20～40 歳代で「勤務問題」「健康問題」、50 歳代からは、「経済・生活問題」「健康問題」が上位となっている。女性は、すべての年代で「健康問題」が第 1 位となっているが、20 歳代では、「学校問題」も上がっている。(表2)

原因・動機の項目ごとの特徴を見ると、「健康問題」の内訳は、「精神障害」(68.1%)、「身体の病気」(26.5%)が多かった。さらに「精神障害」の内訳では「うつ病」(67.5%)が最も多かった。

「経済・生活問題」の内訳は、「負債」(40.5%)、「生活苦」(24.3%)、「失業・就業失敗」(13.5%)だった。

「家庭問題」の内訳は、「家族間の不和」(48.8%)、「家族の将来を悲観」(19.5%)であった。

「勤務問題」の内訳は、「仕事疲れ」(33.3%)、「職場の人間関係」(23.3%)だった。(図 9)

*平成 19 年 (2007) 自殺統計から、遺書等の自殺を裏付ける資料があり、明らかに推定できる原因・動機を自殺者 1 人につき最大 3 つまで計上可能としたため、原因・動機別の和と原因・動機特定者数は一致しない。

総数		20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80才～
動機 原因 ・ 件数	1	勤務	健康	健康	健康	健康	健康	健康
	2	学校	勤務	勤務	経済	家庭・経済・ その他・不詳	経済	家庭
	3	健康	経済・その他・不詳	経済・不詳	家庭	—	家庭・不詳	不詳
男性		20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80才～
動機 原因 ・ 件数	1	勤務	健康	健康・勤務	経済	健康	健康・経済	健康
	2	学校	勤務	—	健康・家庭	不詳	—	家庭
	3	健康	経済・その他・不詳	経済	—	家庭・経済	不詳	不詳
女性		20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80才～
動機 原因 ・ 件数	1	健康・学校	健康	健康	健康	健康	健康	健康
	2	—		家庭・不詳	家庭	その他	家庭	家庭
	3	勤務・不詳		—	不詳	家庭・経済	経済・不詳	不詳

表2 平成29年 年齢階級別、男女別における原因・動機の順位 警察自殺統計

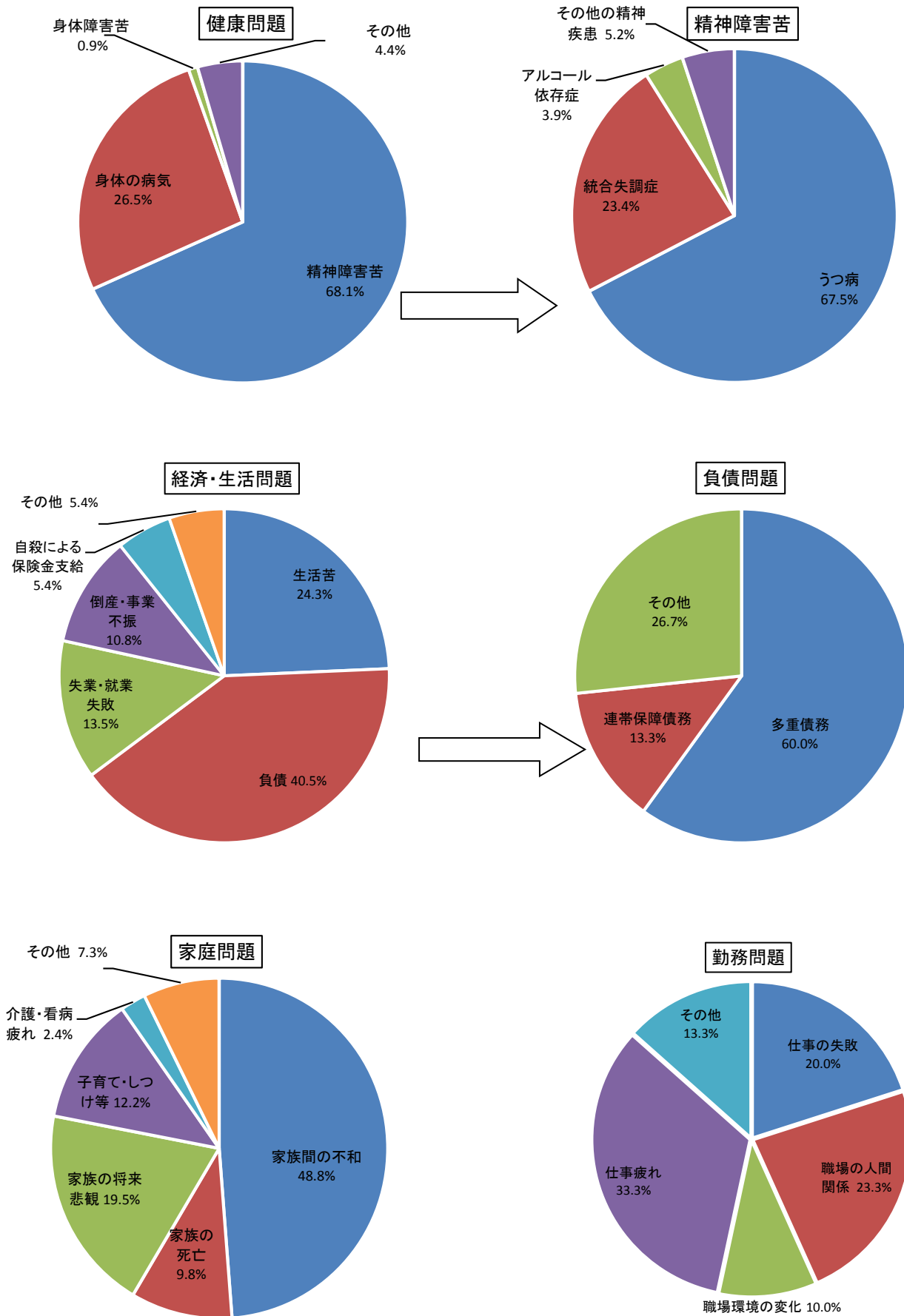


図9 平成29年原因・動機別詳細割合 警察自殺統計

※原因・動機は複数計上（自殺者総数217人、原因・動機特定者295人）

(8) 場所別の自殺の状況

場所別でみると、「自宅」が147人(67.7%)と最も多く、次いで「乗り物」が11人(5.1%)、「病院・施設」が9人(4.1%)となっている。全国に比べ自宅の割合が若干高い傾向にある。(図10)

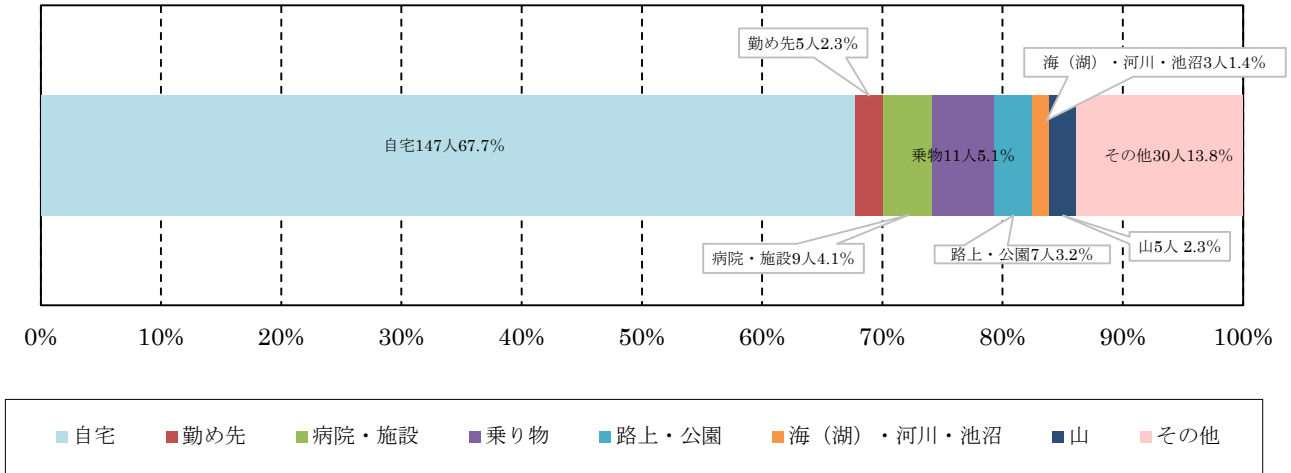


図10 平成29年場所別自殺状況の割合 警察自殺統計

(9) 月別の自殺の状況

月別でみると、山形県は、3・5・10月が多かった。3・5月の自殺者数が多いのは、全国の傾向と同じである。(図11)

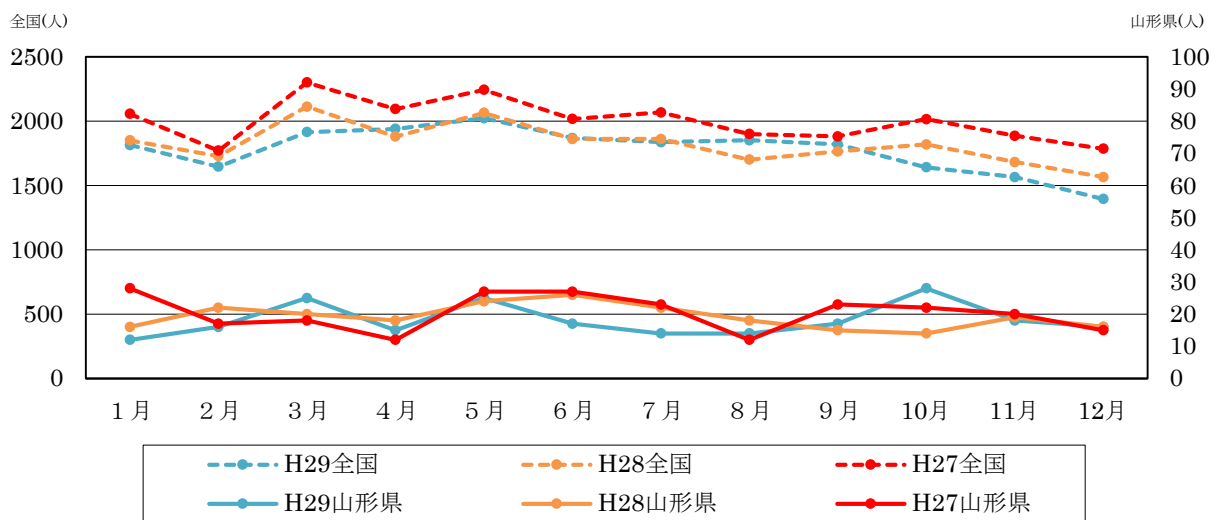


図11 平成27～29年死亡月別自殺者数(全国・山形県) 警察自殺統計

(10) 自殺未遂の状況

自殺者のうち、自殺未遂歴「あり」の割合は、男性15.5%、女性24.8%だった。男性より女性の未遂歴「あり」の割合が高いのは、全国と同様である。

(図12)

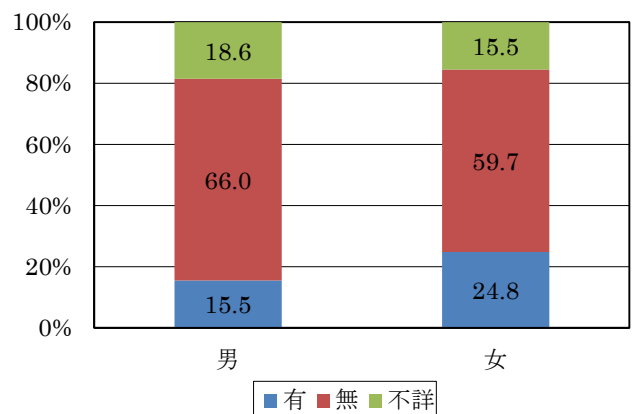


図12 平成27～29年自殺者の自殺未遂歴の有無の割合(平均値) 警察自殺統計

【11】同居の割合

自殺者のうち、同居者の有無をみると、男性71.9%、女性84.3%で、男女とも同居人「有」の割合が高い。全国・山形県とも、男性に比べ女性の同居割合が高い。(図13)

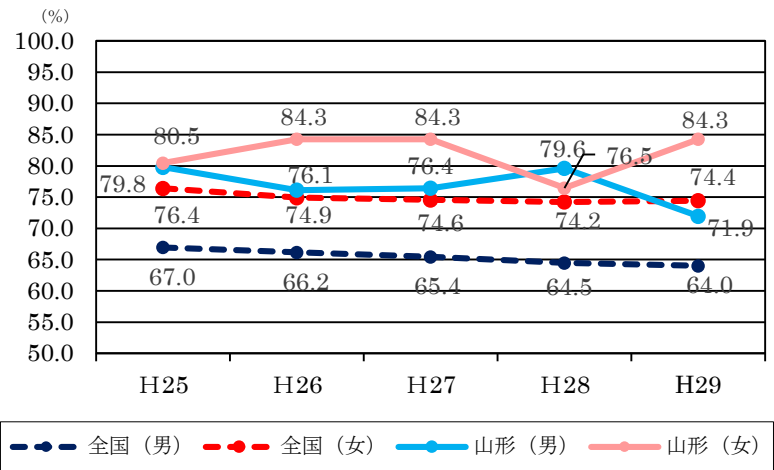


図13 平成25～29年自殺者の同居の割合
厚生労働省 地域における自殺の基礎資料(住居地)

【留意事項】

- 1) 人口動態統計の数値は、確定値を使用。
- 2) 警察自殺統計は、発見地を使用。
- 3) 率算出のための分母に用いた人口(単位:人)

①日本人人口

	山形県		全国	
	男	女	男	女
平成29年	529,000	567,000	60,676,000	63,973,000
	1,095,000		124,648,000	

「平成29年10月1日現在人口推計(総務省統計局)」

②山形県の年齢階級別人口及び4地域別人口は、日本人及び外国人を対象に集計している「山形県の人口と世帯数(山形県統計企画課)」を使用。但し、平成27年は、「平成27年国勢調査人口等基本集計結果報告書(山形県統計企画課)」を使用。

【参考】

～人口動態統計(厚生労働省)と自殺統計(警察庁)の相違点～

名称	説明	
人口動態統計 (厚生労働省)	対象	日本における日本人
	計上時点	住所地をもとに死亡時点 住所地で計上
	計上方法	自殺、他殺、事故死のいずれか不明の時は自殺以外で処理しており、後日死亡診断書等作成者から自殺の訂正報告がない場合は、自殺に計上しない。
自殺の概要 (警察庁)	対象	日本における外国人を含む
	計上時点	死体発見時点(認知時点) 住居地(住所地ではない)・発見地で計上
	計上方法	死体発見時に、自殺、他殺、事故死のいずれか不明の時は、その後の捜査により自殺と判明した時点で計上。